

1 保護者等に伝えたい！

日々の園生活を充実したものにするため、最も重要な協力者は「保護者」と考える。家庭から園へ、園から家庭へ、潤滑な生活のつながりが子供たちの安心感を支え、安定した情緒を保障している。

保護者の温かな子供を愛する気持ちをさらに引き出し、子供の発達に関心を寄せて理解してもらうことや、成長を共に喜び合うことを目指したい。

事例

1

インターネットで発信しよう

- ・保育の「見える化」の推進
(ICT、アプリケーション、SNS等の活用)

ねらい

日々の子供の生活や成長する姿を分かりやすく伝え、保育への理解を深める

「私たちの保育を知ってほしい」～SNSで発信～

園へ足を運ばない仕事の忙しい保護者や、遠方に住む祖父母等が、子供の様子を知りたいと思った時に、気軽に園の情報を見ることができなのがSNSでの発信である。また、どの園へ我が子を入園させるかを検討する際にも、このような情報は役に立つ。身近で手軽に入手できる情報として、今やインターネットでの園の紹介や教育方針の発信は不可欠と考える。では、具体的にどのような情報を発信することが必要なのだろうか。

本園では、保護者によく使われているSNSを活用して、保育実践の様子や園紹介の動画を配信している。



【子供たちの作品を紹介】



【園での活動の様子を紹介】

カブトムシ博士からオンライン上(リアルタイム)で話を聞く機会をもちました。子供たちは興味津々！



【作品を掲示した環境を紹介】



【遊びの環境を紹介】



色を混ぜたらこんな色になった！色水遊びは発見が一杯です。

ポイント

視覚的に分かりやすく伝える工夫をする。

社会全体に広く理解と共感を得られるよう、園の方針や最新情報など、専門的な知識も含めて分かりやすい発信をする

「保育の専門性を届けたい」～連絡帳アプリで発信～

毎日の保育内容に「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」や「乳児保育の3つの視点」をプラスして、「何が育まれているか」を意識的に保護者に届ける。

〈幼児クラス向けのドキュメンテーション例〉

今日の育ち 健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり **思考力の芽生え**
 自然との関わり・生命尊重 数量や図形標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

タイトル: 「もったいないばあさんの絵本からやってみよう」

夏祭りが終わり、ひと段落。この体験を生かし、今度はフェスタの準備が始まりました。本日のサークルタイムでは、テーマ決めとシンボル決めをしましたが、この題材は少し難しかったようです。「みんなが好きなこと、気になっていることは何ですか？」と質問を変えたところ、「もったいないばあさん」の話ができました。

※幼児期の終わりまでに育てほしい姿

「もったいないばあさん」の絵本の中にあつた草木染に実際に挑戦しました。その時の様子が伝わる写真を一緒に配信し、子供たちが真剣に取り組む姿を伝えています。“不思議発見！”の体験でした。

〈乳児クラス向けのドキュメンテーション例〉



子どもたちの今日の育ち 身近な人と気持ちが通じ合う **身近な物と関わり、感性が育つ** 健やかに伸び伸びと育つ

タイトル: 音が鳴るね

保育者がクルクル回ったカップを手で「ぱんっ」と止めたり、自分で持って“こんこん”と床やカップ同士を合わせて音を鳴らすと、興味を示し、楽しむ子供の姿が見られました。

※乳児保育の三つの視点

音が鳴ると、泣いていた子供も泣き止んで「何の音？」の表情で関心を寄せていました。

ポイント

毎日の活動の様子と、その時芽生えた育ちの意味を保育者の視点も含めて伝える。

SNS やアプリを活用するにあたって・・・

○発信のタイミングや留意点

- 日々の保育で保育者が着目した子供の育ちや作品を、不定期に発信している。平均して、月2回は SNS で外部に情報発信することを目指している。
- 行事の様子は、行事後の達成感だけでなく、経過等も含めて発信している。当日を迎えるまでの子供と大人のストーリーを、葛藤や努力、失敗・成功だけに着目せず、発達や“ここからつながる育ち”を意識して、写真や言葉を選んでいる。
- ドキュメンテーションは毎日作成し、連絡帳アプリで各年齢に発信する。「今日はこんなことを楽しんだのね」と様子を知ってもらうと同時に、保育者が捉えた子供の活動の価値や意味も届けている。

○発信する際に配慮する具体的な点について

- 子供の状況とともに、保育者の願いや思いも伝える
- 遊びを通じた学びのプロセスを具体的に伝える
- コメントはなるべく短く、要点を押さえるようにする
- 保育者の働き掛けや、環境の構成の意図についても知らせる
- 配信後は対話等を通して、保護者からの感想や意見を聞くようにする



○ネット上の媒体には十分な配慮と注意が必要！

- コロナ禍を経験し、一気に進んだ ICT 環境とその利用だが、ネット上の媒体という点では十分な注意が必要である。
- 掲載する写真や保育の内容が、誰にでも伝わりやすいものか、不愉快にさせるものではないか、個人情報の取り扱いに問題はないか、綿密な配慮をして準備をする。
- 便利で伝えやすいというメリットと、どんな問題が起きる可能性があるかなどリスクについて、職員間で十分に話し合い、意識向上と事前対策を心掛ける。
- 複数の保育者及び園長等で確認の上、発信する。



配信を見た人の感想

- SNS で、楽しんでいる絵本を紹介した時の保護者からのコメント
「やまぶき組の姉もこの絵本が大好きで、あかね組の妹に必死に読んであげています。
“ぼん！”の所で2人共笑顔になり、私も見ていて癒されます！」
- SNS で、カブトムシ博士（ゲストティーチャー）と交流した時の
地域関係者からのコメント
「あれが、カブトムシの帝王？ヘラクレスオオカブトですか？！すごいですね、大きい！
本物に触れられて良かったですね💖」
- SNS で「夏祭り」の発信をした際の支援センター利用者からのコメント
「園って、季節の行事をきちんとしてくださるのですね。本当に有り難いです💖」
- SNS を見た実習生や就職活動中の学生から伝えられたコメント
「0歳児の暮らしの動画がとても可愛く、これから実習に行く時の参考になった」
「園の目指す保育観が発信の中にも感じられて、自分の挑戦したい保育に近いと思って、
応募した」
- 連絡帳アプリを見た保護者から
（退勤前に職場で見ているので）送迎時に、「『今日は～したの？』『楽しかった？』と園
の先生からの報告を待たずに、子供と会話が弾みます」
- 毎日のドキュメンテーションを見て成長を捉える保護者から
「先週の〇〇の活動はルールが分からない子が多いのかな？と思ったのですが、今週は
しっかり理解してみんなで〇〇を楽しんでいるのですね。うちの子供だけでなく、他の
家庭の子供の様子もよくわかります」

SNS は保護者以外の人でも園の情報をキャッチして、コメントできるので、
「園」「保育」への理解につながりやすいと感じている。

ふりかえり

子供の魅力ある映像やコメントとともに育みたい資質・能力も SNS で発信

本園は、SNS を活用して自分たちから発信し、保護者や地域・小学校等関係者だけでなく、就園前の乳児を始め、入園予定児の保護者等にも実践の様子を届けるよう努めている。SNS での情報発信の利点は、双方向の意見交換ができ、互いにつながりやすいことである。また、写真や映像を中心にした情報は、理解が得やすい。

情報発信の際には、写真や映像とともに、遊びを通して「幼児期に育みたい資質・能力」が育まれていることを、短い言葉で伝えるようにもしている。子供の育ちの共有を進めることで、園の保育への理解も深まっていく。